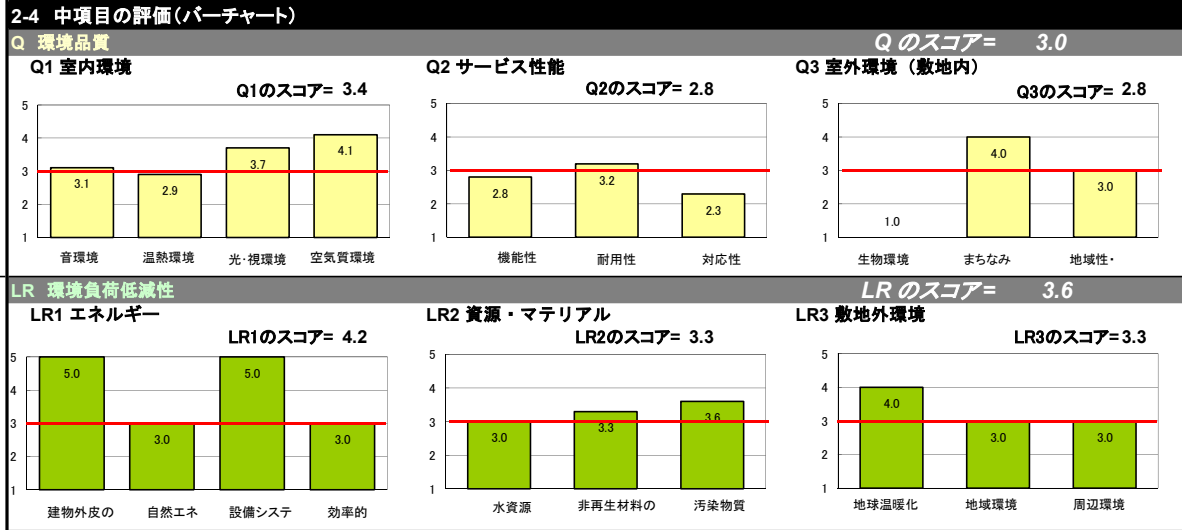
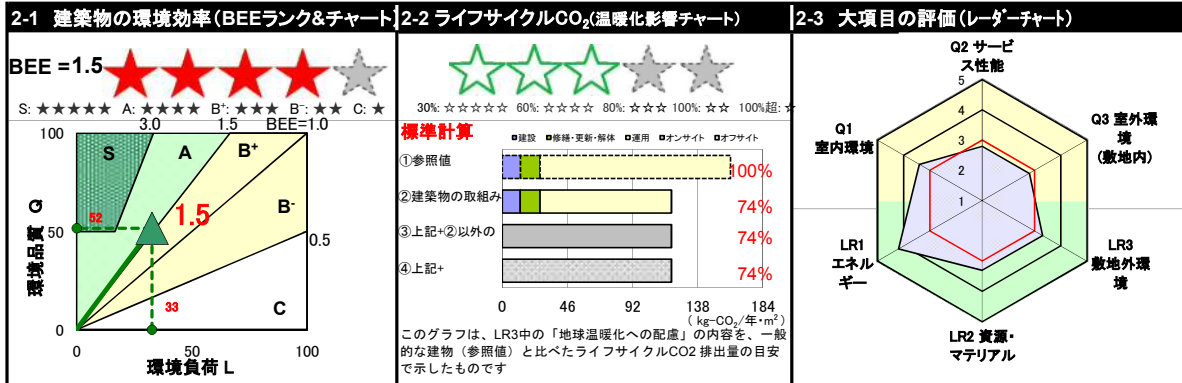


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ABホテル蒲郡	階数	地下0階、地上10階
建設地	愛知県(仮換地)東三河都市計画事業	構造	RC造
用途地域	市街化区域、近隣商業地域、準防火	平均居住人員	110人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年3月 予定	評価の実施日	2018年1月10日
敷地面積	1,227 m ²	作成者	SL石川
建築面積	297 m ²	確認日	2018年3月16日
延床面積	2,470 m ²	確認者	SL石川



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.0</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;">7.3 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.2</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体	
Q 建築物の環境品質														3.0	
Q1 室内環境														3.4	
1 音環境															
1.1 室内騒音レベル														3.0	
1.2 遮音														3.0	
1 開口部遮音性能														3.0	
2 界壁遮音性能														3.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														3.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														3.0	
1.3 吸音														3.0	
2 温熱環境														3.1	
2.1 室温制御														4.0	
1 室温														3.0	
2 外皮性能														4.0	
3ゾーン別制御性														5.0	
2.2 湿度制御														1.0	
2.3 空調方式														3.0	
3 光・視環境														3.3	
3.1 昼光利用														4.2	
1 昼光率														5.0	
2 方位別開口														-	
3 昼光利用設備														3.0	
3.2 グレア対策														3.0	
1 昼光制御														3.0	
3.3 照度														3.0	
3.4 照明制御														3.0	
4 空気質環境														4.2	
4.1 発生源対策														4.0	
1 化学汚染物質														4.0	
4.2 換気														4.0	
1 換気量														3.0	
2 自然換気性能														-	
3 取り入れ外気への配慮														5.0	
4.3 運用管理														5.0	
1 CO ₂ の監視														-	
2 喫煙の制御														5.0	
Q2 サービス性能														2.8	
1 機能性														3.3	
1.1 機能性・使いやすさ														3.0	
1 広さ・収納性														-	
2 高度情報通信設備対応														3.0	
3 バリアフリー計画														3.0	
1.2 心理性・快適性														3.0	
1 広さ感・景観 (天井高)														-	
2 リフレッシュスペース														4.0	
3 内装計画														3.0	
1.3 維持管理														4.0	
1 維持管理に配慮した設計														4.0	
2 維持管理用機能の確保														4.0	
2 耐用性・信頼性														3.2	
2.1 耐震・免震・制震・制振														3.0	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														3.0	
2 免震・制震・制振性能														3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数														3.7	
1 躯体材料の耐用年数														3.0	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														5.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														3.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														3.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														5.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔														3.0	
2.4 信頼性														3.0	
1 空調・換気設備														3.0	
2 給排水・衛生設備														3.0	
3 電気設備														3.0	
4 機械・配管支持方法														3.0	
5 通信・情報設備														3.0	

3 対応性・更新性				3.0	0.29	2.0	2.0	1.00	2.3	
3.1 空間のゆとり		②	資料② 壁長さ比率			1.0	1.0	0.50		
1 階高のゆとり									1.0	0.60
2 空間の形状・自由さ									1.0	0.40
3.2 荷重のゆとり									3.0	0.50
3.3 設備の更新性						3.0	1.00			
1 空調配管の更新性						3.0	0.17			
2 給排水管の更新性						3.0	0.17			
3 電気配線の更新性						3.0	0.11			
4 通信配線の更新性						3.0	0.11			
5 設備機器の更新性						3.0	0.22			
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22					
Q3 室外環境(敷地内)					0.30				2.8	
1 生物環境の保全と創出		独自③	緑の量の確保:配置図(風向緑地図)	1.0	0.30				1.0	
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	街並みの調和を図り、ランドマークとして景観に配慮した。	4.0	0.40				4.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30				3.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		3.0	0.50					
3.2 敷地内温暖環境の向上				3.0	0.50					
LR 建築物の環境負荷低減性									3.6	
LR1 エネルギー					0.40				4.2	
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPIm=0.77	5.0	0.30				5.0	
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20				3.0	
3 設備システムの高効率化			省エネルギーweb計算によ	5.0	0.30				5.0	
4 効率的運用				3.0	0.20				3.0	
集合住宅以外の評価				3.0	1.00					
4.1 モニタリング				3.0	0.50					
4.2 運用管理体制				3.0	0.50					
集合住宅の評価										
4.1 モニタリング										
4.2 運用管理体制										
LR2 資源・マテリアル					0.30				3.3	
1 水資源保護				3.0	0.15				3.0	
1.1 節水				3.0	0.40					
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60					
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67					
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33					
2 非再生性資源の使用量削減				3.3	0.63				3.3	
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07					
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25					
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②		3.0	0.21					
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	ビニル床材、タイルカーペット、インターロッキング*	5.0	0.21					
2.5 持続可能な森林から産出された木材		独自	↑資料③エコマーク品利用							
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み				3.0	0.25					
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22				3.6	
3.1 有害物質を含まない材料の使用			資料④ 壁紙接着剤	4.0	0.32					
3.2 フロン・ハロンの回避				3.5	0.68					
1 消火剤										
2 発泡剤(断熱材等)			資料⑦ 断熱材ODRO	4.0	0.50					
3 冷媒			資料⑥ 新冷媒R-32利用	3.0	0.50					
LR3 敷地外環境					0.30				3.3	
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2概算値:74%	4.0	0.33				4.0	
2 地域環境への配慮			資料⑤ 気象データ:愛知県蒲郡	3.0	0.33				3.0	
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25					
2.2 温暖環境悪化の改善				3.0	0.50					
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25					
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25					
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25					
3 交通負荷抑制		独自		3.0	0.25					
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25					
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33				3.0	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40					
1 騒音		独自		3.0	1.00					
2 振動		独自								
3 悪臭										
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40					
1 風害の抑制										
2 砂塵の抑制										
3 日照障害の抑制				3.0	1.00					
3.3 光害の抑制				3.0	0.20					
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70					
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30					

重点項目スコアシート

(仮称)ABホテル蒲郡

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.0	0.10	
② 資源の有効活用				3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:7.3%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み})\text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア= $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み})\text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	蒲郡駅の南側に立地するビジネスホテルである。駅前周辺の新しいまちづくりを意識し、今後の周辺整備の事例となる建築物を目指す。建築物単体では、省エネ設計値が適合基準を満たす省エネルギー性能を目指し、施工性や維持管理を意識したコストバランスを実現できる、快適な室内環境の整備を行う計画とする。
Q1 室内環境	ホテル客室内の居住性を考慮し、遮音性確保や採光による昼光率向上を実現した。
Q2 サービス性能	客室利用客のみでなく、建物維持管理作業従事者への配慮も行っている。標準的な維持管理仕様ではあるが、配管仕様を高品質とし、継続的なメンテナンスしやすさを考慮した設計とした。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内植樹など緑地計画は、必要駐車場量や建物配置計画による制約の中で、量の確保と共に、地域植物の採用に配慮した。一方、建設地が海に近いこともあり、建物高を生かし、蓄電池設置や排熱放出は建築物の高い位置からとなるよう努めた。
LR1 エネルギー	建築外皮への熱負荷を抑制する建築仕様を徹底した。また、各客室での1次エネルギー消費量を抑えることに寄与する設備選定に努めた。
LR2 資源・マテリアル	有害物質を含まない建築材料、再利用可能な部材、リサイクル材などを積極的に採用した。
LR3 敷地外環境	蒲郡駅の南口正面に位置し、周辺はこれから整備される予定の開発地域であり、隣接して大規模小売店舗などがある。開放的なエントランスを設置し、駅を中心に通行者にも開けた建物を目指した。用途上、廃棄物の保管スペースや駐車台数の確保を行うなど、日常の迅速な顧客対応に配慮した動線を検討した。
その他	